

多様な切り花の需要に対応 ～加工用に特化した切り花産地の育成～

農業技術振興センター農業革新支援部

【普及活動のねらい】

仏花用組花をターゲットとして県内で進めている短茎小ギク栽培は、全県的な取組を推進し、市場評価も得られ、全国的に注目される取組となりました。

今後の本県花きのさらなる生産拡大を図るため、平成26年度から、小ギクに次ぐ取組として、近年需要が増加傾向にあるホームユース向け草花に着眼し、JAや各農業普及指導センターと連携し、加工用に特化した切り花生産を推進することとし、これまで、各地域の農業普及指導センターでは、県域推進品目として設定したストック、トルコギキョウおよびアスターや、地域の特徴を生かした品目の生産を推進してきました。

そこで、当部では、これらの各地域の様々な草花の生産者と、流通、実需者をつなぎ、生産から販売まで一体となった産地化を進める花きコンソーシアムの育成を誘導し、本県独自の新たな加工用に特化した花き産地の育成を目指しました。

【普及活動の内容】

ストックやトルコギキョウなどの県域推進品目については、県域での技術研修会の開催と併せて、市場ニーズに迅速に対応できるよう、JA間で生産出荷計画や品質評価について情報共有を図りました。

地域推進品目については、各JAが持つ販売ルートを活かし、実需が切り花ハボタンなど特色ある切り花生産を推進しました。

【普及活動の成果】

3年間の取り組みの結果、県域推進品目では東近江地域で集落営農法人等を中心に、水稻育苗ハウスを活用したストックとトルコギキョウの生産拡大が進み、関西市場を核とした花きコンソーシアム形成が図れました。

地域推進品目では、湖北地域で新たに始まった切り花ハボタンが京都市場で高い評価を受け、花きコンソーシアム形成に向け動き出しました。他にも、リンドウや、ラナンキュラスなど各地域の特徴を活かした花き栽培が、市場や実需者とのつながりを持った中で生産が始まりました。



写真1 県域推進品目の栽培研修会

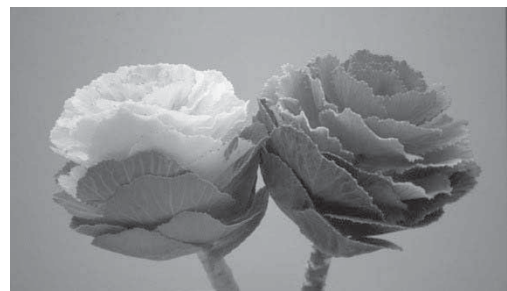


写真2 湖北地域で栽培が始まった切り花ハボタン

◎対象者の意見

育苗施設の有効活用と所得確保に向け、切り花の導入は有効である。(集落営農法人)
切り花ハボタンが地域特産として生産がさらに拡大し定着することを願う。(生産者)